

イベントで秋の実りを楽しむ

しろいしSunPark「オータムフェスティバル」

11月14・15日、しろいしSunParkで市農業祭に代わる秋の収穫感謝イベントとして、「オータムフェスティバル」が開催され、多くの来場者でにぎわいました。

会場では、各施設の運営事業者による独自イベントに加えて、白石高校の生徒による「第2回白高ササフェス」、白石産ササニシキ復活プロジェクトによる「新米セール」、認定農業者連絡協議会による「秋の収穫感謝祭」なども開催。「新米セール」では用意した白石産ササニシキが完売、おもしろいし市場の売り上げも今年最高となりました。

「第2回白高ササフェス」では、白石高校の生徒とみのりキッチンが共同開発した、白石産ササニシキを使ったジェラートの販売やスムージーの試飲、ササニシキの米粉を使ったクレープづくり体験などを行い、多くの方が白石の新しい味覚を堪能していました。



1\_「第2回白高ササフェス」の屋外テントは大にぎわい！  
2\_イチゴと合わせた、ササニシキを使ったスムージー  
3\_ササニシキのジェラートはすっきりした甘みと触感！  
4\_ササニシキの米粉を使ったクレープづくり体験も大人気

カいっぱい疾走！

小十郎ランニングフェスタ

11月14日、白石川緑地公園内で「2020小十郎ランニングフェスタ」が開催されました。白石市陸上競技協会が主催するこの大会は、公園内の陸上競技場と外周コースを使用し、毎年「小学生駅伝」と「クロスカントリー」の2種目が行われています。

新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの陸上大会が中止となるなか、場内への入場制限や、大声での応援自粛を求めるなどの対策を講じての開催となりました。

天候に恵まれた今年の大会に、「小学生駅伝」に25チーム、「クロスカントリー」に約50人が市内外から参加。「小学生駅伝」では、1チーム5人の走者が全長約8.5キロのコースでたすきを繋ぎ、ゴールを目指して走りぬく熱戦が繰り広げられました。市内最上位チームが手にできる教育長杯は、白石第一小学校から参加した「白石一小A」チームが栄冠を手に入れました。



1\_晴天のもと、多くの選手が参加しました 2\_受けたたすきは次の仲間へ 3\_最後の力を振りしぼってゴールへ

日々の訓練が人命を救いました

人命救助表彰

11月9日、人命救助に尽力された<sup>さいとうかずお</sup>齋藤一夫さんと深谷小学校の先生方へ、梅津祐二<sup>うめつゆうじ</sup>白石消防署長から感謝状が贈呈されました。9月4日に深谷小学校敷地内で、心肺停止状態に陥っていた男性を齋藤さんが発見し、同校の先生方に連絡。先生方は119番通報やAEDによる処置などを行い、男性の心肺蘇生につながりました。

梅津白石消防署長は「初動の適切な処置がなければ救命困難な事案でした。迅速な対応に感謝します」と話していました。



▲(左から)梅津白石消防署長、齋藤一夫さん、<sup>ひらまさのぶ</sup>平間正信<sup>みよたけあき</sup>深谷小学校長、三代澄子<sup>みよたけあき</sup>養護教諭、佐々木駿<sup>ささきしゅん</sup>主事

みんなで「トリックオアトリート！」

白石市第一幼稚園「ハロウィーンで遊ぼう」

10月30日、白石市第一幼稚園でハロウィーンを楽しむイベントを行いました。この催しは、園児に外国の文化や言葉に親しんでもらおうと毎年開催しています。今年は白石市第二幼稚園の4歳児も参加し、おばけや魔女などの手づくり衣装を着て、園庭に用意された六つのゲームを楽しみました。

最後は「トリックオアトリート、お菓子をくれなきゃいたずらしちゃうぞ」と声をかけ、先生からお菓子をもらっていました。



▲ALT（外国語指導助手）と交流する園児

冬季にきれいな花を

上郡山地区植栽活動

11月17日、上郡山地区の国道113号沿いに整備された「ふれあい花壇」で、住民による植栽活動が行われました。地域の交流と環境美化を目的にしたこの活動に、住民約80人が参加。新型コロナウイルス感染症の影響で、今年は参加を見送ってきた子どもたちも親子で参加し、にぎやかな活動となりました。

参加者は、パンジーやピオラなどの苗約1,600株を、道路沿いの花壇にきれいに植えていきました。



▲色とりどりの花で花壇を癒やしスポットに